

# 例会報告

第2635回例会報告議事録

日時 令和3年3月16日（火曜日）

場所 ハート柏迎賓館

時間 12:15点鐘

ロータリーソング「それでこそロータリー」

ゲスト：藤本りこ様（藤本会員ご令嬢）

ビジター：なし

S.A.A.: 小池喜之

## 会長挨拶

村越会長



今日は出席人数が少なくてちょっと寂しいんですけども、コロナの状況が下げ止まりで我孫子市が累計606人、柏市が1979人で、まだまだ油断できない状況です。そんな中11グループでも例会を再開し始めました。スクール形式にしたり、柏西クラブは食事はしないでお弁当にして持って帰っていただいたり、いろいろ工夫しながら例会を再開しています。

今日は依田会員がお休みでZOOMができず、依田会員お一人にZOOMのことを依存してはいけないと改めて反省した次第です。

今朝5時前に大きな地震があって目を覚まされた方も多かったと思います。先週木曜の3月11日が東日本大震災から10年の節目でした。ロータリーに関して言いますと、東日本大震災で親御さんを亡くされたお子さんたちへの「ロータリー希望の風奨学金」という、ロータリーメンバーの有志で作った奨学金制度があります。「ロータリー希望の風奨学金10年の歩み」という電子書籍が出ました。ロータリーのホームページから見るができますので、ぜひ見ていただければと思います。月5万円の返済不要の奨学金です。今年は157人の学生に差し上げているそうです。ロータリーというのは奉仕の理念で働いていることを改めて知った次第です。

本日は藤本会員の卓話です。今日は出席者が少ないのですが、少数精鋭で拝聴したいと思います。お嬢様もありがとうございます。また今後ともよろしく願いいたします。

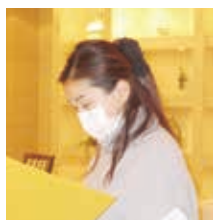
## 親睦委員会報告

米田会員（代理）

本日は特にございません

## 出席委員会報告

関根会員（代理）



16名（出席免除者含む）出席（全員で32名）出席率50%

業務による欠席者：荒井会員、梶会員、木村会員、古谷野会員、三枝会員、佐藤会員、塩毛会員、堤会員、寺井会員、服部会員、日暮会員、福武会員、前田会員、柳田会員、湯下会員、依田会員。

## 社会奉仕委員会報告

藤本委員長



地区からの報告です。

3月12日（金）18時から第9回の職業社会国際奉仕の統括委員会がありました。地区補助金申請に対するクラブへの質問の仕方の打ち合わせをしました。補助金の申請があがっているのが今現在3クラブで非常に少ない状況です。例年であれば、この時期10とか二桁くらいは申請があるのですが、今年に関してはまだまだ少なく、ぎりぎりまで待ちましょうということです。

申請が上がってきた順で、クラブに質問を投げかけます。4月10日の奉仕統括委員会において選考し、翌週4月17日に地区補助金のメンバーと合同で選考会を行う、という形を考えております。

## 幹事報告

倉持幹事

本日は特にございません。



改めてこんにちは、藤本でございます。

最近、地区出向の報告を毎週させて頂いておりますが、卓話については2年ぶりでしょうか。

今般の卓話は、先週、荒井プログラム委員長(以下、おーちゃんと申します)からのお声かけで登壇することになりました。

いきなりなので、何もネタが無いよと申し上げましたが、今日が私の誕生日だからそれに因んだ卓話で良いじゃんか!ということで、改めて私の生い立ちから現在に至るまでのお話をさせて頂きます。

#### ①…出生

昭和39年3月16日に、東京は墨田区向島で出生しました。

今でいう、東京スカイツリーの麓ですね。

藤本家はこの地で、曾祖父と祖父が営む“革屋”で生計を立てておりました。

父は家業を継がず、いち会社員として奉公をしておりましたが、昭和46年に我孫子に居を構え、私は我孫子市民となりました。

そして父は翌年に有限会社武蔵野不動産を創立しました。

#### ②…小学校時期

私をご承知の通り、決して社交的な性格ではなく、流されるままに過ごしておりました。

ドラえもんの友達である、のび太のような男の子ですね。

対して、おーちゃんは朗らかで、男女を問わず大変人気のある存在でした。

この頃から今に続く、車に興味を持ち始めますが、電気機器にも非常に関心が高く、家にあるテレビ・ラジオ・ステレオの裏ふたを開け、分解・修理をしておりました。

それだけでは物足りず、なけなしの小遣いを握りしめ、秋葉原のパーツ屋さんでトランジスタ・抵抗など半導体等を買って求め、自作でラジオやアンプなどを作ることが日課となっておりました。

#### ③…中学校時期

次に中学校へ入学し、ここで日暮会員と出会います。

日暮君は利発で運動神経も優れ、ここでも格差を覚えます。

私は祖父っ子で、その祖父が経験した柔道を始めたく、入学早々柔道部に入部しました。

ご覧の通り、決して恵まれた体躯ではありませんが、私との身長差約20センチの、現読売新聞大阪本社社長の柴田君と乱取りの際に、たまたま私が仕掛けた小外刈りが見事に決まり、喜んだのもつかの間、そのあとは赤鬼と化した柴田君に投げ飛ばされ続けました。

僅か3年ではありますが、柔道で経験した“根性と気合”がこの時に身に着いたものと考えます。

#### ④…高等学校時期

高校は都内の私立へ入学しました。

ここで今でも深い付き合いのある、三浦君と知り合います。

三浦君は従業員500人ほどの物流会社の社長ですが、彼は大変破天荒で、ロータリアンの皆様の前では到底お伝え出来ないことばかりの逸話があります。

また大変男気のある奴で、彼の自宅や会社の不動産売買と賃貸については、全て私に任せてもらっています。

在学中は作文に興味をわき、担当の先生から“ジャンルは問わずに、関心の持った本をどんどん読みなさい”と教示されました。

父が読書家で、実家には置く場所がないほどの本がありましたので、それを読み漁りました。

その際に感銘を受けた、この“邸 永漢”の書籍はバイブルです。

#### ⑤…工科系大学時期

幼少のころから続いている趣味のエレクトロニクス・メカトロニクスを極めたく、都内の工科系大学へ入学し、様々な設計開発技術を会得しましたが、それには設計図書が必要不可欠です。

就職活動時に、これらのドキュメントを制作している会社が都内にあることに気づきました。

結果、その会社に入社し6年間奉公しました。

## ⑥…宮使い時期

父と同世代で、寡黙かつ大変寛容な吉原社長に、入社ひと月前の会食に呼ばれた際、“藤本君、残業をせずに1年間夜学でコボル言語を習得しなさい”と命を受けました。

この学校は、平日3時間みっちり講義があり、卒業時には1/3程のクラスメートが途中で断念していききました。

私は会社の経費で学んでいますから、ギブアップできません。

通学時の社内部署は、技術編集室に属しており、メーカーの試作品と技術資料を基に、マニュアル原稿執筆と編集作業に追われていました。

卒業後は技術営業室に移動し、メーカーの設計開発並びに購買担当者との折衝です。

当時、すでに上席が開拓した関東近辺のメーカーとの取引はあるものの、関西メーカーは皆無でした。

そこで私は、会社四季報を肩身離さず、関西メーカーの新規開拓に注力して参りました。

その頃は、今のようなネット環境など無く、ニフティサービスのパソコン通信のみでしたが、最低でも週2日は関西入りをし、東京～関西の遠距離デメリットを打破するために、きめ細かな対応をすることで、徐々にメーカーさんから認知して頂くことが出来ました。

1年間の新規開拓営業後、吉原社長へ大阪に出室したい旨を進言し、すぐさま大阪分室を開設させて頂きました。

経費削減のため、単身で仕事場と住居を併用したアパートでスタートしました。

超職住接近ですね。

これにより営業窓口ではありますが、果たしてメーカーさんとの距離は近くなりました。

メーカーさんとの取引が増えるに従い、技術編集スタッフとメーカー設計開発担当者との打ち合わせが多くなり、分室開設2年目には私の結婚を機に、職住分離をしました。

東京本社から、ベテランの技術編集チーフと、中堅スタッフが大阪へ赴任、現地では技術編集スタッフ2人を採用し、技術営業の私を含め、5人体制になりました。

赴任中、月に2度、東京本社で行う早朝の“MS会議”に参加するため、私が実家へ帰る際、父から名前だけ貸して欲しいと懇願され多数の書類に署名捺印し銀行へ出向きました。

振り返ればその頃はバブル崩壊前夜で、父は元気がないように感じ取った覚えがあります。

この時期は移動時間を利用し、とにかく本を読み漁り、多いときでは一日2冊乱読していました。

所謂活字中毒ですね。

その際、特に感銘を受けた著者は、この“デール・カーネギー”と“一倉 定”と“椎名 誠”です。

自己啓発と社長学とエッセイと、全く分野が異なりますが、これらも私のバイブルです。

よくひとから、家業は継がないの?と尋ねられました。

子供のころの作文では“将来は不動産屋になる”と書いていたこと思い出し、この移動時間を宅建にかかわるものに置き換えてみよう、と、押っ取り刀で梅田の紀伊国屋書店でテキストと過去問を買い求めました。

宅建試験まで1年間の時間がありましたので、ひたすらテキスト・過去問の繰り返しを行いましたところ、50問中49問の正解で合格しました。

その頃分室は、複写機メーカー・計測機器メーカー等の取引が売り上げに寄与し、スタッフを増員するために大きなオフィスへ移転をしました。

仕事のフローは、メーカーへ技術編集スタッフが出向き、付きっ切りで行うことにより、漸く密着できるスタイルになりました。

## ⑦…家業時期～現在

吉原社長には、父の健康を考え家業に専念をしたい旨を伝えたところ、快諾して頂き、分室最後の出社は、来阪されスタッフと飲み明かしました。

宅建の資格を保有したといえど、それは机上で得た知識ですから実践には程遠いものです。

父は対エンドユーザーとの関りが無く、もっぱら裁判所で競売物件の札入れや、業者間との取引を生業としておりましたので、賃貸物件の案内や契約は経験がありませんが、これからは避けて通れないビジネススタイルです。

宮使いの終焉時には、インターネットを活用したビジネスが始まりつつありました。

私は東京本社上席のアドバイスの基、自社HPの開設と物件検索システムの開発を手掛けました。

この時期は、まだ大手業者さんも手つかずでしたので、差別化による大きな果実を享受出来ました。

然しながら奮闘するも、多額の借財を抱えた父の会社は解散をすることになりました。

その前年に私の興した会社は宅建業免許を得て、おーちゃん推薦のもと、新生武蔵野不動産を立ち上げ現在に至ります。

創立5年後には、漸く私が負った債務を完済することが出来、晴れて住宅ローンを取り組める身になり

ました。

私は今に至るも、大変多くの人に支えられてきました。

どうしても乗り切ることが出来ないとき、スポンサーに多額の融通をして頂いた際は、何も言わず借借書も不要で、“返済は藤本さんの無理のないときで良いよ”とのことでした。

返済の際、お礼の気持ちを渡すと“僕はこれを受けるつもりで融通したんじゃないんだよ”と諭されたときは、感謝の念に堪えませんでした。

そのスポンサーは、今、栄地区で大規模な特定事業を取り掛かって頂いている方です。

以前ミニ卓話で申し上げましたが、この方は物件を見ずに数千万円乃至数億円の不動産をポンと購入して頂いております。

“社長、見てください”と進言をしますが、“藤本さんがこの企画で行けると言うんだから見る必要はないでしょう”と一蹴されます。

私は、全ての仕事に感謝をもって取り組むことを信条にしております。

至極当たり前のことですね。

宮使い時は、クライアントが大手メーカーでしたが、この仕事に従事してからは様々な人と出会っております。

ペテン師・詐欺師・地面師・反社会的勢力者・ストーカー・殺人犯と多種多様です。

ややもすると多額の金銭に携わるからでしょうか。日々勉強です。

また私が尊敬する方のひとりで、当クラブ36代会長の故野田 進さんがいらっしゃいました。

野田さんとはクラブでの接点はございませんでしたが、我孫子に戻ってきた際に、商店街組織である商栄会の加入を勧められました。

皆様ご存じの通り、野田さんは大変穏やかな方で何時も笑顔を絶やさず、芯のあるリーダーでした。

その野田さんから、“町おこしプロジェクトとしてフリーマーケットを中心にイベントをやろうよ!については藤本さんが引っ張って行ってよ”と、あの笑顔で言われるんですね。

これは5年ほど毎月第3土曜日に開催されました。

この間様々なことに遭遇しました。

あるとき、ストリートミュージシャンの奏でる音がうるさいと、ものすごい剣幕で本部テントに来られた方に対して、“藤本さん、上手くまとめてよ”と、野田さんはあの笑顔で言われるんですね。

どうしたものかと、野田さんを見るとニコニコしているんです。

私は、あ、これか!と察し、その方が思いのたけを吐露する罵詈雑言をすべて聞き入れた後、私は“お休みのところ大変ご迷惑をお掛けしました。申し訳ございません”と、ひと言申し伝え、果たして落ち着かれたのでしょうか、“言い過ぎた、あんたたちも大変だけれど頑張れよ”と言われ立ち去りました。終始見守っていた野田さんは、“よく我慢したな、もうこのイベントはすべて藤本さんに任せるよ”と言われました。

とにかく反論せず、先ずは相手の話を聞き入れる術は、私のバイブルである、デール・カーネギーの著書“人を動かす”に書かれている手段なんですね。

それからは人の話を最後まで聞く耳を持つことにしております。

その後、野田さんが入院され、お見舞いに伺ったところ“商栄会は藤本さんに任せたよ”と言われましたが、役員や長老と相談しますねと返答しました。

皆と話し合っ、この機会に役員の総入れ替えをし、若手中心で再スタートしようと思われ、野田さんへ報告に行こうと思っている矢先、急変され帰らぬ人になりました。

最後のお別れの際は、商栄会の発展と後世の若旦那たちへのバトンタッチに、全身全霊を注ぐことを誓いました。

閑話休題、現在の私は4年前におーちゃん、我孫子市商工会では村越会長、米田会員増強委員長から当クラブ入会のお誘いを受けました。

おーちゃんからは、国歌斉唱やロータリーソングを歌ったりするけれど、宗教やカルトじゃないからねと言われ、オブザーバで例会に参加をしました。

今に至るまでは、親睦担当、広報公共イメージ委員長、奉仕プロジェクト委員長、クラブ幹事を務めさせて頂き、そして次年度は地区の国際奉仕委員長、次々年度はクラブ会長の拝命を頂いております。

まだまだロータリークラブの全容を把握していませんが、クラブの発展に尽くす所存です。

これもミニ卓話で申し上げましたが、ロータリーバッジを着けていますと、様々な場面で、“藤本さんはロータリアンですか”とお声がけを頂きますので、襟を正し紳士然と振舞わなければと心がけております。

また村越会長も仰られるように、会員の皆様におかれましては、積極的に他クラブにメーキャップをされてください。

刺激を受けること間違いありません。

(次ページへ続く)

話しは変わり、現在私が携わっている仕事ですが、所謂不動産屋であり、おーちゃん・倉持幹事と同業種ではあるものの、それぞれ微妙に立ち位置が異なります。

私はその殆どがリピートによる業務で、物件所在地を問わず、全国何処でも出向き商談を致します。前述の栄地区特定事業地は、仙台・大阪・川崎・横浜の地主さんと2年の期間をもって商談をし、漸くスポンサーにお買取り頂きました。

また、国内外に幾多も出店をしている東証一部上場の法人さんと、私のスポンサーとのコラボで国内の既存店舗を共同利用するプロジェクトも進めております。

この業界には魑魅魍魎が跋扈していると揶揄されます。

先に申し上げました、地面師や反社のとても個性的な方々と遭遇し、拉致されたこともあります。

不動産は千三つと称されることはご存じでしょうか？

千に三つ決まればよい、千のうち三つしか本当の話ではないとの意味です。

然し、誰かが商いを決めるものなのですね。

私は案件話を持ち掛けられただけでも有難いと受け止め、あらゆる情報を用い成就する努力をします。

まあ、決められなくても宝くじを買ったものと思っております。

最後になりますが、父からは大きな財産を与えてもらったと考えております。

本の楽しさの環境を与えてくれたこと、借財があったことはバネになって大きな財産に帰ってきました。

私如きのつまらぬ卓話を最後までご清聴頂き、誠にありがとうございました。

## 閉会の言葉

村越会長

藤本会員、素敵なお話ありがとうございました。藤本会員は来年度、地区の委員長という形で我孫子クラブから出向してくださいます。ご活躍を期待しております。

## ニコニコBOX

お名前	メッセージ	金額
藤本りこ様	久しぶりに例会にお邪魔させて頂くことができ、みなさんにもお会いすることもでき良かったです。	1,000円
村越会長	藤本会員 卓話ありがとうございました。	2,000円
石原会員	お誕生日おめでとうございます。	1,000円
小野会員	藤本会員 卓話ありがとうございました。	1,000円
上村文明会員	藤本会員 卓話ありがとうございます。 誕生日おめでとうございます。	1,000円
上村英生会員	藤本会員 卓話ありがとうございます。	1,000円
小池会員	藤本会員 卓話ありがとうございました。	1,000円
関根会員	藤本会員 卓話ありがとうございます。	1,000円
藤本会員	久しぶりに娘を参加させて頂きました。	1,000円
米田会員	藤本会員 卓話ありがとうございました。	1,000円
当日計		11,000円
今期累計		397,000円

今週の表紙「湖北小学校」千葉県我孫子市中里95番地

明治7年（1874年）開校の130年以上の歴史がある小学校です。昭和49年に創立100周年を迎えました。

湖北小学校は西原遺跡がある場所でもあります。1985～1998年（昭和60～平成10年）までに行われた発掘調査では、古墳時代から奈良・平安時代の集落跡が中心に確認され、土師器や須恵器等の土器が多く出土しました。

ロータリーの友事務局 ホームページ [www.rotary-no-tomo.jp](http://www.rotary-no-tomo.jp) メールは [web@rotary-no-tomo.jp](mailto:web@rotary-no-tomo.jp)

環境NPOオフィス町内会が中心となって2005年に立ち上げた新たな間伐促進活動が「森の町内会」です。この活動に賛同して「印刷用紙」や「コピー用紙」を使用する企業は2009年9月現在、92社にのぼり、その環境貢献として促進される岩手県岩泉町・葛巻町・青森県三沢市での間伐は、年間30haの規模になっています。グリーン購入大賞で大賞を、山村カコンクールで林野庁長官賞を受賞しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

我孫子ロータリークラブは、環境貢献として、「森の町内会」を応援します。